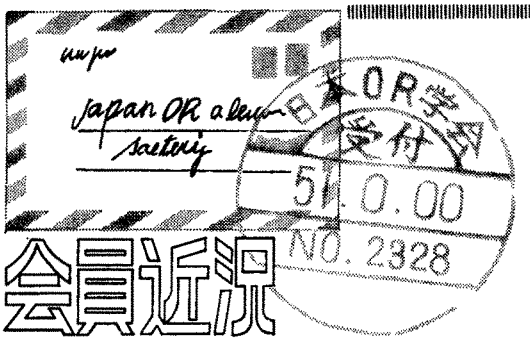

会員近況

青山学院大学
理工学部経営工学科　佐久間章行

お願い幾つか　1.　生産管理手法の適用技術に関する研究会を4月より機械学会につくりました．特別参加いただければ幸いです．ご一報ください．(03-307-2888)

2.　1サイクル・タイム・スタディを提唱しています．良質の標準時間を安く，早く設定する方法です．VTRを使用します．実験工場を探しています．

3.　この数年，日本IE協会のIEレビュー誌の編集をお手伝いしています．新しくIE，OR，SE，QCなどについての言いたい放題の欄“二言三言”を設けました．匿名でも結構です．1,100字にまとめてお送りください．(宛先，東京都渋谷区渋谷1-7-8　日本IE協会)

4.　キーワーズを利用したカリキュラム分析のアンケート調査に多数の経営工学関連学科の先生方のご協力をいただき，高い回答率を得ることができました．厚くお礼を申し上げます．

東京理科大学
工学部　平川孝三郎

最近数年間のおもな仕事は，分布型についての仮定をおかずに，2つの連続分布の同一性を検定するための検定法を11種類取り上げて，検出力の比較検討を行なったことである．モンテカルロ法を用い2年近くかかってまとめたものであるが，いくつかの興味ある性質を見いだすことができた．

予測に関係あるものとしては，上限，下限既知のロジスティック関数のパラメータに対する推定量のモーメントの数値計算があるが，さらに信頼区間を求めるためのグラフを作成するところまで進めたいと思っている．

ORの具体的な問題とも取り組みたいと思っているがなかなか余裕がない状態である．入学試験の結果，何位まで合格とすれば4月になって何人入学してくるかという問題には大きな関心があるが，指定できる説明変数のほかに，標本調査によらなければ測定できない要因があるので，少々工夫を要すると思われる．

(他の所属学会)　日本数学会，日本統計学会

千葉工業大学
工業経営学科　卜部　舜一

“遊び”のOR　中小企業のためにOR手法の適用をもっと拡大すべきである，というのは私の持論であるが，中小企業経営者の方は，ORに未知の人が多いし，その採用にまことに臆病である．この解決のためには，こうすればこうなるという具体的な現場適用例を数多くつみ上げねばならないと思う．

さて“遊び”という面にも興味ある多くの研究テーマがある．いわゆるレジャー産業に対してもっとOR的開発が行なわれてよいのではないか．私は近ごろある遊園地を対象に解析をすすめているが，①遊びの品質をいかに数量化するか　②施設のレイアウトのやり方は？　③催物の魅力をどのように宣伝すべきか　④遊園地の安全とはどのようなことか．ことに年少者を対象とする場合は？　⑤したがって設備保全方式は？　などと問題はもりだくさんである．

かつて，ディズニーランドを訪れたことがあるが，ここの経営の裏にはOR研究が多く潜んでいると察したものである．

富士通ファコム
技術システム部　菊池　武昭

交通需要推計方法を模索中　ここ10年来，計量経済モデルによる農業政策シミュレーションや，各種需要予測の仕事を行なってきましたが，4年ほど前から，交通需要推計(主として，道路交通量)の仕事をしています．

昨年からは，従来一般に使われていた，交通需要推計

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

方法の追跡調査を行なう機会を得て，今までの方法の使用限界，問題点が少々明らかになりつつあります．そこで，本年は今回得られたデータをもとに，利用目的ごとに必要な精度を満たす交通需要推計方法を設定できないか，模索しようと考えています．

また，長期的には，より簡便（1つの計画案の評価資料を得るのが短時間ですむこと）な方法で，交通政策シミュレーションを行なえるようなシミュレータを作成しようと考えています．これにより従来のモデルは主として費用の節約により，スタティックなモデルを使用するケースがほとんどでしたが，ダイナミックなモデルを利用できるようになると考えています．

防衛大学校
理工学研究科（システム工学）　佐々木正文

信頼性との16年のつき合い　防大理工学研究科OR専攻のシステム工学の系列を担当し，システム工学，情報工学，信頼性工学などを講義しています．

信頼性とのおつき合いも16年になり，その間いろいろの想い出を残しました．信頼性のシンポジウムに招待講演者として渡米したこと，イリノイ大学数学教室からニューヨーク大学のIE/OR教室に信頼性の研究のために転勤したこと等．現在は理論的に研究したことと現場で実用化するときの接点に関心を持っております．防衛庁関係者で構成している防衛システム研究会の，筆者が部会長をしている信頼性部会の活動もこれらの1つのアプローチと考えております．防衛システム研究会の事務局としての雑用もシステム工学系列の担当者としては当然の奉仕と割りきっております．最近，数学会（アメリカ）のMathematical ReviewsのOR関係のreviewerを依頼され，雑用もまた1つふえました．

（他の所属学会）　数学会，電子通信学会，電気学会，IEEE．

三和銀行
総務部（東京）MISグループ　御宮知（みやぐち）　樹（たてき）

制約条件の多いシステム系　最近，「銀行の役割について」の中間報告が，金融制度調査会によりまとめられた．その中で「経済活動は可能なかぎり自由な価格機構のもとで行なわれるべきであり，それによって資源の配分，有効利用も実現されなければならない」とし，「しかるに，わが国の金融システムは行政面で他産業に比べ直接統制的であり競争制限的である」旨の指摘がなされている．

私は現在，この競争制限的であるとされている金融機関で，すなわち制約条件の多いシステム系で各種〔店舗立地，資源（人員・資金）配分問題等〕の最適解を求めるべくデータの間を彷徨しているわけだが，やはりサブ（ミニ）システムの最適値しか求め得ていないという感をぬぐいきれない．

資源の適正配分，有効利用を計るためには，立場をかえて（OR学会々員として）わが国の金融システム全体，すなわちトータルシステムとしての解を求める必要性を感じる昨今である．

早稲田大学
理工学部数学科　洲之内治男

講義して感じていること　主として数学，もう少しくわしく言うと，関数解析や，その結果を発展方程式の解法やその数値解法に応用することを研究しています．非線形の問題でそのうち有用な応用が見つかるかもしれません．

ところで，ここ4，5年来，理工学部の1，2年生の基礎課程の数学を講義するようになり，現在の学生の意識と教科内容の異和感を悟ることしばしばです．一方，最近はプログラム学習や，コンピュータを使ったCAI学習など，いろいろな教育方法が考えられてきていますが，このような教育方法やその教科内容，細かくは教材の配列などについて，いろいろな感想はすぐ言えますが，科学的な評価（アセスメント）の問題が起こります．もちろん教育の効果は，短期的に考えるのか，長期的に見るのか，とか，知識を与えるのか，わからせるのかといったような意見や判断の基準があり，大変むずかしい問題ですが興味があると思っています．機会をみてはささやかな実験をしたりしていますが，OR的な考え方が大事であろうと思います．会員の皆様のご意見などお聞かせ願えると幸いです．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

統計数理研究所　大隅　昇

公害データの質の採点　公害データをあつかっていると必ず大量の集積データのあつかい方とその質の妥当性の見きわめ方とが問題になる．また非常に地域性があるために，画一的な処理方法を確立できないむずかしさもある．こうした問題に対処する第一歩として公害データの“質の採点”に焦点をあわせたデータ解析法の検討を行なっている．

また，こうしたアプローチの基礎ともいえるデータの獲得にいたるまでのイキサツ，つまり“データの履歴”を評価するしくみを考えているが，いろいろとおもしろい問題がある．最近，SO_xの測定値は温度変化とかなり相関があることを知ったが，これなどあたりまえのことのようにみえて実はほとんど吟味されていない例の1つである．10℃温度が上がるとおよそ 0.01ppm 程度の変動はざらに起こるというのである．こうしたデータが目の前に出てくると，いったい環境基準とは何であるのか改めて考えさせられる．ともあれ，こうしたことも実例あってのことと，千葉県全域の大気汚染質データ，瀬戸内海およびその周辺の河川の汚染質データなどを対象にデータの評価に明けくれている．

松下技研開拓部　古田　興司

モデルを育てる楽しさ　入社以来，CAM (Computer Aided Manufacturing) プロジェクトのメンバーとして，将来の製造システムを夢見ながら，現実的な問題に1つ1つ取り組んでいます．

現在のメイン・テーマは，シーケンス制御用自動プログラミング・システムの開発，サブ・テーマは自動生産ラインのシステム設計法の研究です．

私の会社は，研究開発を受注生産しています．そのため，受注活動は研究業務の大切な1部となります．いままで，資料相手に机にへばりついていたカマボコ研究者は，板離れを強いられたわけです．

私が大学でORの勉強をしたときの手本は，ほとんどがアメリカの文献でした．できあがったモデルを少しだけ変えて勉強をしたつもりになっていました．脱カマボコ中のいま，モデルづくりの“生みの苦しみ”，と同時に応用の“育てる楽しさ”を味わっています．

北里大学病院企画室　二宮　総蔵

地域医療情報システムの建設　北里大学病院は，病床数1,000，外来患者数1日1,500の規模で，神奈川県の中部，北部における医療のセンターとしての責任を課されています．この地域の住民は約 100万人と推定され，適切な地域医療システムの必要性が痛感されています．

ここ数年来，私が担当しております業務は，医師，パラメディカル，EDPS要員等で編成されている地域医療情報システム建設のためのプロジェクトチームにおいて，システム分析，設計のコンサルテーションをすることです．

現在までに完了したものは，メディカル・レコード・データベースの作成と，このデータベースに連絡した情報検索ならびに数理統計処理のサブシステムのデザインです．

現在当病院をとりまく医療環境にはきわめて複雑な要素が多く，ORのセンスとたゆまざる努力とが要求されます．この分野の事項に関し，諸兄姉のご支援を切望する次第です．

第一生命保険相互会社システム部　データ管理課　千村　宗生

情報の洪水の交通整理　社内へ流れ込む情報を，機械判読のできるデータとしてつくったり，機械処理結果を出力する部門の仕事を今年よりはじめた．

データ入力の主力は，オンライン化が進みつつあるが，キーパンチャーであったり，OCR-READであったり，まだ人手をわずらわすものが多い．今後さらに合理化が進むであろう．また事業の性質上顧客（契約者）への案内や通知等出力されるものも数多く，その管理もしている．

いかに大量のデータを正確に処理作成するかが，仕事のポイントである．ただし，いまだOR的な観点からのアプローチがなく，今後の管理手段としての導入が必要と思っている．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．